

特集

原水爆禁止2023年世界大会

～ノーモア ヒロシマ、ノーモア ナガサキ、ノーモア ヒバクシャ～

長崎

8月7日(月)～8月9日(水)に長崎県長崎市内で行われ、青森民医連から7名が参加しました。今回参加した2名から感想を寄せていただきました。

◆弘前参加者

台風6号の影響で9日(水)までの予定が変更となり2日間での開催となりましたが、7日(月)は開会総会、8日(火)は分科会と閉会総会が開催され、核軍縮や核廃絶を目標に活動されている方たちの貴重なお話を聞くことが出来ました。

講演をされたのは、いずれも核保有国と核の傘の国の代表の方たちでした。政治的な立場が異なる各国ですが、代表の方たちのお話の中で共通して出るワードがありました。それは核保有・核依存の国でも、その国民の多くは核を持つことに反対しているということです。唯一の被爆国の日本が「核の抑止力」を口実に大軍拡することに無関心ではいけないと改めて考えさせられる2日間でした。

原爆による被爆者には日本人だけでなく、多くの外国人も含まれています。78年経った今でも続く被害が繰り返り返されないよう、私なりに核軍縮・核廃絶に繋がる活動を続けていきたいと思います。(健生病院 奥山千尋)

◆青森参加者

「核兵器のない世界の実現を願い、平和について学ぶ」

青森保健生活協同組合の代表として参加しました。「核兵器のない平和な世界へ」のテーマのもと学習しました。

日本の被爆地である広島・長崎で毎年交互に行われているこの大会は、今年は長崎で開催されました。新型コロナウイルスが流行していた関係で近年リモート参加でしたが、数年ぶりの現地参加となりました。大会の内容は、各国から来日した海外スピーカーの発言を聞いたり、興味のあるテーマの講演会に参加したりするもので、核兵器をめぐる問題や世界情勢について学習することができました。

その中でも特に印象に残っているのは、実際に当時被爆した方の貴重なお話も聞くことができたことです。今の、戦争のない日本からは想像できない過激な被害に、とても胸が苦しくなりました。お話を聞いて私は、これから時が進んでいっても、核兵器の悲惨な歴史・被爆者の苦しみと想いを風化させてはいけなと、強く感じました。そのために私ができることは微力かもしれませんが、核兵器をめぐる問題についてさらに知識を深めたり、署名活動に参加したりして歴史をつないでいきたいと思いました。(協立クリニック 石橋みなみ)



7/22 第54回医師総会

7月22日(土)午後、第54回県連医師総会を弘前市にあるフォルトーナを会場に、初めてハイブリッド開催しました。現地には医師31名、含め54名、オンラインで医師12名含め29名、事前動画で医師1名・医学生3名、合計87名が参加しました。

2019年以来4年ぶりの集合開催とあって、“交流”をメインに準備しました。第1部は報告を中心におこない、医師委員長からの報告、県連外研修報告(徳竹晴香医師、山崎佑真医師、小山内俊晶医師、水尻毅医師)、2年目研修医報告、院所長就任あいさつ(竹内一仁医師、原徹医師、磯島寿人医師、澤岡孝幸医師)、新入医師あいさつ、奨学生活動報告(1年生2名と6年生1名)を、それぞれ報告していただきました。冒頭の医師委員長報告では生き方を問いかける内容もありピリッとしましたが、その後の報告は笑いも起きるリラックスした雰囲気で行いました。

第2部は交流企画として、現地で参加した医師にメッセージボードを配布し「大切にしていること」をその場で書いていただき、先に4名の医師(岡野奈穂子医師、佐藤衆一医師、加村梓医師、百成公美医師)から全体で発表していただきました。オンライン参加者にはそこで終了とし、現地会場ではその後メッセージボードを使って班交流をしました。

全体4時間の長丁場でしたが、終わってみればあっという間ではなかったでしょうか。残念ながら懇親会は2日前に取りやめる判断をしました。次回は是非懇親会を開いてさらに交流を深めたいと思います。

(青森民医連 事務局次長 佐藤真人)

青森民医連
第54回医師総会NEWS No.1

2023年8月2日発行
青森民医連 第54期
発行：県連医師委員会
医師委員長 石田 晋吾
sato@ammin.jp

第54回県連医師総会ご参加ありがとうございました!!

当日の様子を少しだけ写真でご紹介します!

【総勢87名が参加】
2023年7月22日(土)14:00~18:00に第54回県連医師総会を開催しました。今回は感染対策を講じつつ、フォルトーナ(弘前市和徳町)をメイン会場にオンラインとのハイブリッド開催となりました。
4年振りの集合開催ということで、本総会では記念講演や学習企画は設けず、お互いを知る機会、交流を深める機会としました。
約1時間設定した班別交流では各テーブル、大いに盛り上がっていました。
ハイブリッド開催ということで、音響や通信環境等の課題があった部分もあるかもしれません。ご不便をおかけした皆様には申し訳ございません。
今回の経験を次の医師総会開催に向けた糧として、県連内の医師集団の結束と発展に繋げていければと思います。
参加された皆様ありがとうございました。今後もご理解ご協力をお願い致します。

参加者の皆様へお願い
感想アンケートの提出がまだお済みでない方は下記QRコードより必ずお願い致します。

スマートフォンで
すぐできます!



1948年に制定された優
生保護法は、1996年母体
保護法に改定されるまで「優
生上の見地から不良な子孫の
出生を防止する」として一定
の条件下では本人の意思に関
わらず不妊手術を実施するこ
とを可能にする法律でした。
国は、身体拘束や麻酔薬を使
用しても強制不妊手術を行う
ことは「公益上の理由」から
憲法の精神に反しないという
解釈を示し、障害者を劣る者
厄介な者として差別した間
違った優生思想を広め、隔離
と断種を法の下で実施しまし
た。2023年1月熊本地裁
で初めて旧優生保護法は差別
的な思想に基づいた憲法違反
と判断され国に賠償命令とな
りました。人権が蔑ろにされ
た被害者一人一人の賠償はこ
れからの運動になります。な

ぜこの重大な人権侵害に対し
て無差別平等の医療理念であ
る民医連は気づくことが出来
なかったのかを自ら掘り下
げ、「見解」では反省と謝罪
についても示されています。
まだの方は読みやすい項から
で良いと思いますので「見解」
を読んでみてください。学び
につけること、当事者を中心
にして人権を考えること、倫
理的な課題は一人ですぐに決
めないこと等、あらためて大
切だと学びました。全職員の
学習運動は2024年2月ま
で続きます。グループワーク
では様々な学習計画案が話さ
れました。他グループの検討
内容も参加者に配布されまし
たので職場に合わせてご活用
頂きたいと思います。

(教育委員会事務局長
小形てる美)

2023年度

教育委員会
職場管理者・職場管理補佐研修
「旧優生保護法下における強制不妊手術問題に対する見解」の学習運動

茨城保健生活協同組合城南病院の医師で全日本民医連副会長の加賀美理帆先生が講演された動画から学び、全職員の学習運動を広げていく計画づくりについて相談し合うグループワークを行う研修会を6月6日(火)、14日(水)、27日(火)、29日(木)、30日(金)と計5回、弘前、八戸、青森の各地域をオンラインでつないで開催しました。

県連卒後症例発表会

7月9日(日)、第36回看護卒後研修症例発表会が社会教育センターで開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、2020年は中止、2021年2022年はオンラインでの開催、今年は4年ぶり対面での開催となりました。5月8日よりコロナの感染症分類が2類から5類に変更となった事で、感染対策を行いながら、皆様の協力もあり無事に終えることができました。

久しぶりの対面開催で、委員としては進行に不安もありました。開催前の現地視察で、照明をつけるタイミングを合わせたり、部屋の広さや物品の位置、配線の確認等を何度も行いました。



当日、発表者の欠席はなく27名が無事に発表を終える事ができ、入職してからこれまでの成長を感じる事が出来る内容ばかりでした。この2年間はオンラインでの開催でしたが、参加者のアンケートでも『対面で直接発表を見る事が出来て良かった』『表情が直接見ること成長を感じられる』等嬉しい意見を頂いています。青森県医連の職員が集まって、対面で開催出来た事は委員としてもとても嬉しい事でした。

卒後症例としての発表は終わりましたが、今後も青森県民医連の看護師として成長していける事を願っています。発表お疲れ様でした。(あおもり協立病院 工藤文子)

2023年度 県連事務職員基礎研修

7月24日(月)、県民福祉プラザにて、県連事務基礎研修を開催しました。入職1年目から2年目の事務職員を対象に行いました。11名の職員が参加し、対面開催ならではの活気ある研修となりました。①患者・利用者様の視点で考え行動する姿勢を身につける②地域に根差した医療活動を知る③事務職員の先輩の経験から学ぶ④ビジネスマナーを学び事務職員としての接遇向上へ役立てる⑤互いの業務認識を深め自らの任務と成長の方向性を描く。と5つの目標を掲げ行われた研修では、「情勢を知ろう」「高齢者疑似体験」「ビジネスマナー講座」「地域に根差した医療活動を知る」「先輩の経験から学ぶ」と盛りだくさんの内容で、皆さん真剣に耳を傾けていて、体験やグループワークでは積極的に参加されていました。参加者からは「高齢者の会計は何故遅いのだろうと思っていたが、不自由さを実体験し、遅くなるのがわかりました。声掛けや手助けをもっとしようと思う」「接遇について振り返る機会となった」等など、好評の感想が聞かれました。研修に参加された職員の皆さんが、これから成長していけることが非常に楽しみです。



(八戸生協診療所 事務長 八森真美)

第1回

まちづくり実践交流集会

つながりを絶やさないまちづくりを目指す為に

7月15日(土)、全日本民医連第1回まちづくり実践交流集会が東京都の会場とオンラインで開催され、現地25人、オンライン223名が全国から参加しました。千葉大学予防医学センター教授の近藤克則先生より「Well Active Communityづくりは可能か？」の記念講演があり、地域活動や介護予防、社会的処方についての講話を聞きました。その後、埼玉県、大阪府、新潟県から各地の取り組み報告とグループ交流をしました。

記念講演の中でも特に印象的な部分は、地域活動への参加とフレイルが関係することです。前期高齢者を対象とした老人クラブや、自治体への参加率とフレイル該当者割合の調査では、健康状態が地域によって差があり、その中でも活動者が多い地域ほどフレイル該当者が少ないそうです。さらに、参加や役割を担うことと認知症が関係しており、人と関わる中で身体を動かすことが認知症予防に繋がるそうです。そこから、地域活動の一環である班会が認知症予防に繋がると知り、より多くの方に参加を促したいと感じました。

グループ交流では、各生協の活動や課題、講演の感想等を話し合いました。各生協から課題として挙げられたことは、職員の地域活動に対する理解をより一層深めることです。また、「組合員の高齢化」が共通の課題であることが分かりました。交通手段が無く遠方への外出が困難になり、地域参加を諦める組合員が増えています。参加できる人を増やすために、どのような取り組みをするべきか組合員と一緒に考えていきたいです。

(津軽保健生活協同組合 組織部 葛西彩水)

75歳以上医療費窓口負担 (2割化実施後) アンケート調査結果 記者会見

～医療費窓口負担2割化の中止を国に働きかけよう～

6月30日(金)、青森県庁で記者会見し、75歳以上医療費窓口負担アンケートの調査結果を公表しました。アンケートは青森県民医連加盟医療機関及び薬局を利用する高齢者を対象に2022年12月中旬から1月末まで実施し、726人からの回答が寄せられました。うち75歳以上は485人、医療費窓口負担が1割から2割に増えたと回答した方は140人でした。2割後の負担感について「とても重い」「重い」と回答した人は78%にのぼりました。医療費の増加による影響について「今まで通り受診する」と106人が回答していますが、その背景に、「生活費を削る」、「預金を切り崩して受診する」という回答や、「受診回数・薬を減らす」、「受診をためらうようになった」といった回答が多くあります。



会見で田代実会長は「医療費窓口負担2割化が受診控えや薬の節約につながり、診断・治療の遅れや中断による手遅れ死亡事例がおこるリスクが高まることを懸念している。必要な人が、必要な時に、必要な医療を受けることができ、医療費負担のために診断や治療が遅れることがないように、医療費窓口負担2割化の中止を国に働きかけたい」と強調しました。

今回メディアを通し、社会に対して問題提起するよい機会となりました。医療費窓口負担2割化中止にむけた取り組みを今後も進めていくとともに、共同組織や地域の方々と協力し、高齢者にこれ以上医療費を負担させない運動の輪をより一層広げていきたいと思います。

(津軽医院 事務長 兵藤尚子)

第27回定期総会 青森県社会保障推進協議会

7月29日(土)アスパム5階にて40名の参加で行いました。総会に先立ち、都留文科大名誉教授の後藤道夫氏より「社会的危機の歴史的背景と闘いの方向」についての記念講演がありました。コロナ禍とリーマンショック時期との比較で、コロナ期がいかに貧困・困窮・生活困難がすすみ、かつてない規模の特別現金給付があるものの、深刻な所得不足がすすんでいる状況が明らかになりました。

記念講演に続いて定期総会が行われ、総会及び方針案の提案、決算・予算報告がありました。

各地域社保協からもそれぞれの取り組み報告を受け、地域での様々な活動を共有することができました。2022年度の自治体キャラバンにおいては、就学援助制度の前倒し支給、こどもの医療費無料化、学校給食完全無料化など前進が見られています。その後、採択が行われ全ての議案が採択されました。

国民のいのちと暮らしを守る中央社保協の運動方針に団結し、憲法を守り、生かす社会を目指し、住民とともに社会保障充実を求め、連帯して運動をすすめていくことを確認しました。

(青森県社会保障推進協議会
事務局次長 對馬康文)



第15回 大間原発反対現地集会

脱原発の実現に向けて



7月23日(日)、青森県大間町で「大間原発反対現地集会」が開催され、株式会社ファルマから9名の職員が参加しました。

当日は猛暑で、現地に着いたときには例年より早く集会が終わっており、デモ行進からの参加になりました。2008年から始まった大間原発反対現地集会は今年で15回目になります。集会には全国から200人が集まり、各地で反原発・核運動に取り組む市民によるリレートークが行われました。

下北半島には多くの原発関連施設や、軍事施設が集中しています。岸田政権による原発推進、戦争する国づくり、ALPS処理水の海洋放出問題への怒りの声がありました。

2011年に東日本大震災が発生してから12年が経過しましたが、原発には事故当時の爪痕が相当部分そのまま残っています。原発事故を起こした原

発1号機はまだ骨組が露出している状態です。原発へ近付くにはヘルメットや手袋、ゴーグルなど保護装置と被爆数値を示す線量計を着用しなければなりません。そんな中、本格的なALPS処理水の海洋放出が進められています。(岸田政権は8月24日、処理水の海洋放出を断行しました。)

政府は、国際社会や国民の懸念を直視し、海洋放出計画を強引に押し進めるのを止め、安全かつ透明性ある方法で原発汚染水をしっかり処分し、また国際社会の厳格な監視を受けるべきだと思います。

デモ行進は、のぼりや横断幕、グッズを掲げ「原発いらない」「原発つくらず、未来をつくろう」「核燃のゴミは持ち込むな」などをコールして町内を練り歩きました。

(株式会社ファルマ 工藤留美)

全日本民医連 第45期第3回評議員会

命と人権守られる未来へ

8月20日(日)、東京都内で第3回評議員会を開催しました。第211回通常国会で原発推進法、保険証を人質にした改定マイナンバー法、外国人の人権を否定する改悪入管法、差別と偏見を助長しかねないLGBT法、軍拡財源法等、数々の悪法が強行採決されました。政治の劣化ここに極まり、人権と平和を守るためのせめぎ合いは続きます。「決定的な展望がある。憲法があるということ、憲法が変えられていないことの強み、我々はこの確信を持つ」と報告した岸本事務局長の言葉が胸に響きます。私たちはコロナ禍でつくりだされた困窮とも対峙し、多くの命を救ってきました。

今評議員会は170名(評議員84名)参加し、第2回評議員会からの半年間を振り返り、情勢認識を一致させ、第46回定期総会までの半年間の方針を確認することを目的に、これから半年間どうたたかうか。第46回定期総会に向け、平和と人権・いのち優先の社会をめざす運動の飛躍を誓いあいました。



民医連新聞提供

討議では、田代会長が「絶対的医師不足の解消をめざすドクターズデモンストレーションへの期待」と題して発言し、参加医師から、医師の働き方改革や医療界のジェンダー不平等をめぐる問題、地域の医療提供体制や患者の受療権を守る課題等について発言が続き、主に医師労働のあり方や、経営課題を重点に問題意識を深めました。総会まであと半年間。全国の仲間たちとも連帯し、総会方針の実践に取り組んでいきましょう。(一般社団法人あおもり健康企画 専務 柳谷円)



民医連新聞提供

2023年度

「夏の高校生医師体験」

医師を目指す高校生41名が参加！

夏の高校生医師体験は健生病院、八戸生協診療所、あおもり協立病院の3会場にて計6回開催しました。

健生病院では7月27日(木)、31日(月)に伊藤真弘医師を講師に『生きるための緩和ケア』をテーマにご講演いただき、その後参加者の要望に応えながら院内見学と研修医との聴診器体験・交流会を行いました。八戸生協診療所では、8月7日(月)に診療所内で診療所見学や機器体験(心電図、エコーなど)、和田尊行医師による聴診器体験や模擬診察を行いました。8月3日(木)には坂戸慶一郎医師の訪問診療に高校生が同行する体験も行いました。あおもり協立病院では8月8日(火)、10日(木)に相馬裕医師を講師に『医学部受験と医師の人生』をテーマにご講演いただき、その後研修医も参加して交流会を行いました。院内見学では放射線科、検査科、薬局、用度管理の各職場の皆さんが温かく迎え入れ、工夫を凝らした体験を提供してくれました。

参加者からは「医療現場は想像よりも多くの人が関わり、チームで医療を支えていると感じました」「医師と顔を合わせた時の患者さんやご家族の笑顔が印象的でした」「より一層医師になりたいと思いました」などの感想が出されました。

今回の医師体験では新型コロナウイルスの影響で実施できずにいた、あおもり協立病院の院内見学や八戸診療所の医師体験開催、訪問診療を再開することができました。今後も取り組みを進らせていきます。

(青森民医連 葛西美冴)

高校生一日薬剤師体験会

4年ぶりに医療現場で高校生一日薬剤師体験会を対面で開催しました。

7月22日(土)は青森会場に8名、7月26日(水)は八戸会場に3名、7月29日(土)は五所川原会場に1名の高校生が参加しました。



3会場とも薬局活動をパワーポイントで紹介した後、薬剤師が実際に働いている医療現場で見学、模擬体験を行いました。あおもり協立病院では注射剤のミキシング体験(輸液に注射剤の混入)、大野あけぼの薬局では最後に復習の意味を含め高校生でも解ける薬剤師国家試験問題に挑戦させていたり、ファルマーツ谷薬局では模擬患者に服薬指導の様子を見せるなど、各会場で工夫を凝らした模擬体験でした。

その後、高校生の質問に薬剤師や現役大学生が答え、メモを取る高校生もいました。最後には人口比に占める薬剤師数(県内が下位であること)や、全国の薬科大学数が増える一方で大学間では定員割れしている現状や、医師や看護師と比較し現役生の国試合格率が低いことも紹介し、薬科大学に入学しやすい一方で薬剤師になる

ハードルが高いのが実態ですが、コツコツ勉強を6年間積み上げてがんばってほしいと激励をしました。地元薬科大学があるとはいえ、私立大学学費は高いため在学期間中の学費を紹介した上で、青森民医連奨学金制度をはじめ高等教育就学支援制度(授業料等免除と給付型奨学金)や学生支援機構など、公的な奨学金制度の紹介を行いました。

参加した高校生からは、「仕事の重大さと責任が大きいことを感じ、やりがい大きい仕事だと感じました。」「これからたくさん勉強し、患者さんに寄り添える、優しい薬剤師になりたいなと思いました。」など、前向きな意見があがり、今後も、高校生に魅力のある体験会を継続していきたいと思います。

(青森民医連 立花典明)

働くとは、“人の心と触れ合うこと” 中学生の職場体験を初めて受け入れ

7月4日(火)～5日(水)の2日間、田舎館中学校の2年生5名が健生病院にて職場体験をしました。



2年生の生徒全員が地域の会社やお店、温泉、消防署、図書館などで職場体験をするそう、健生病院には将来医療職を目指す5名が来てくれました。2日間で院内10の職場を訪問し、専門職からその職種の魅力と仕事内容の説明を受けました。また、薬の分包作業なども体験できました。2日目には1時間半と短時間でしたが、内科外来、総合診療病棟、医療安全管理室、サポートセンターに分かれて、じっくりと医療現場の雰囲気を感じてもらいました。慣れない場所での2日間とても緊張したと思いますが、全員たいへん真面目で一生懸命。積極的に体験に参加してくれました。後日、丁寧なお礼状とともに報告集が届きました。そこには、「患者さんを「尊重する、人」として対等に「働くとは、日々勉強だけど楽しいことも嬉しいこともたくさんある最高のこと」「たくさんさんの職種が協力し合いながら患者さんをサポートしていることがわかった」など、見てほしかったこと、感じてほしかったことがしっかりと伝わったのだうれしくなる言葉が並んでいました。タイトルの「働くとは、人の心と触れ合うこと」もそのひとつです。(健生病院 事務局次長 篠原奈緒)

医系合同奨学生会議

私は、今回7月1日(土)に健生病院にて開催された医系合同奨学生会議へ出席しました。看護学生時代に奨学生会議には参加したことはあるものの医学生や薬学生といった同じ医療者としての学生の奨学生会議には参加したことはありませんでした。今回は、先輩看護師として奨学生時代に経験したことや看護師になってからのことを学生たちへお話ししました。そのほかにも、他の医師、薬剤師、

看護師のお話も聞きそれぞれの方がどんな奨学生時代を過ごしていたのか聞くのも興味がありました。そのなかでも、青木医師の講話のなかで、東日本大震災の被災地へ行った時の時計の時刻が津波がきた時間で止まっている写



真をみて心が痛みました。プライベートで釜石や陸前高田市など行ったことはありますが同じ被災地とはいえそこは違った空間のようでした。

自分が学生時代にできなかったことや実際に現場で働いてみてのことなどグループの学生たちへうまく伝えられたのかはわかりませんが少しでも役に立てばいいなと思いました。学生のうちから同じ看護学生だけでなく医学生、薬学生と交流できるいい機会だと参加を通して感じました。

(あおもり協立病院 大宮千尋)

人間の本当の価値というものは
何をしたかではない
何をしようとしているかだ！

山本周五郎・原作
田島孝・脚色
十島英明・演出

新出主演・嵐 圭史

全日本民主医療機関連合会
創立七十年記念 特別公演

企画制作・(株)主史企画

日時：2023年10月19日(木)
場所：リンクモア平安閣市民ホール 昼夜2回公演
昼・14:00～、夜・18:15～
鑑賞券：4,500円(全席自由席)
主催：青森県民主医療機関連合会 (017-723-4076)

チケットは、各法人・事業所で販売中。お早めにお買い求めください。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2023 9月号 380円

好評発売中

民医連70年 入居者の笑顔を求めて

けんこう教室 老眼

放射能の汚染土はどこへ?

レッツ体操

まちなか 岐阜県御嵩町

食と健康 きちんと朝食

発行＝保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

ご家族や友人に元気をプレゼント

民医連70周年を記念し、「いつでも元気」を実家や友人、知人にプレゼントしてみませんか? 職場や共同組織の話題満載の「元気」は、皆さんの活動を知ってもらうのにピッタリ。ご実家が事業所や共同組織から離れた場所にある場合、販売所経由ではなく、直接郵送する個人購読が便利です。

■個人購読の方法(郵送料無料)

- ①お届け先の郵便番号、住所、氏名、電話番号、何月号からご希望か
- ②購読料をご負担いただく方の郵便番号、住所、氏名、電話番号

①と②を保健医療研究所にお知らせください。②の方に郵便振込用紙をお送りします。

例) 9月号からご希望の場合(来年3月号まで7カ月分を前払いで納入) 7カ月分×380円=2660円

年明けに翌4月号以降の継続のご案内を②の方に郵送します。2年目以降もご希望の場合は4月号から3月号まで(年間4560円)になります。

■申し込み、問い合わせは保健医療研究所へ

メール・min-hoken@min-iren.gr.jp

(右のQRコード)

☎03・5842・5656 FAX03・5842・5657



保健医療研究所

うちの メコッコ

vol.
74

♥ name

上(グレー) … ぎん(メス)
8才くらい
右下(茶色) … ここ(メス)
8才くらい
左下(白黒) … ちょび(オス)
年齢不明

三匹三様の
もふもふ



うちの猫たちは3匹とも野良生まれです。縁あって外猫から家猫になった3匹を紹介させていただきます。

みなさん、片手に乗るほど小さい子猫がみーみーと必死に後をつけてきたら…、または片手が奇形の猫がエサをねだってきたら…、または明らかな捨て猫が急に現れたら…、どうしますか。うちは運よく猫を飼うことができる環境だったため、その子たちはうちの猫になりました。きじとら、さばとら、はちわれ、見た目が三猫三様なら、性格もそれぞれです。臆病なこ、落ち着いているこ、わが道をいくこ。チュー

ルが好きなこ、そんなに好きじゃないこ。お気に入りのお昼寝場所もそれぞれです。多頭飼をしたのは初めてだったので、こんなにも性格が違うものかと、日々楽しく彼らの関わり合いを観察しています。
(津軽保健生協 組織部 三上 智子)

私の三つ星★★★★

オススメ

青森県の最高峰「岩木山」(いわきさん) 標高 1,625m 別名「津軽富士」

岩木山は美しい円錐形をしていて、山頂部は岩木山、鳥海山、厳鬼山の3つの峰に分かれています。見る方向によって異なる形に見える岩木山はとても魅力的な存在です。

私は小学生の頃に1度だけ岩木山へ登った事があります。その日は最高の天候に恵まれ、山頂からの眺めはとても素晴らしく、清々しい空気と自然の美しさに感動しました。

田植え時期になると、水が張られた田んぼの水面に鏡のように逆さまに映る岩木山を見ることができます。春、ピンク色の桜や黄色い菜の花畑との華やかなコラボレーションは心を和ませてくれます。秋には、山肌が赤や黄色に美しく染まり、色鮮やかな紅葉で楽しませてくれます。冬になり、雪化粧した姿も素敵で、思わず写真を撮りたくなります。

四季折々さまざまな表情で楽しませてくれる岩木山は、とても魅力的です。(社会福祉法人・花 田中沙也加)



9月 2023年9月 第56期第17回理事会報告

- >> 会長あいさつ
- >> 全日本民医連理事会報告関係
- >> 決裁事項
 - 奨学生関係
 - 県連・地協・全日本関係
- >> 協議事項
 - 第45期第3回評議委員会参加報告
 - 2023年度第1四半期の経営報告
 - 理事会での委員会報告書の書式変更
 - 全日本民医連HP、会員のページのパスワード管理
 - ノーモア・フクシマイわき市民訴訟原告団より団体署名の依頼
 - 新型コロナウイルス対応について
- >> 県連医師委員会関連
- >> 各種委員会
 - 各種委員会報告・署名到達
- >> 報告事項
 - 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - 共闘関係
 - 県連関係
- >> 各法人・事業所報告